

いぐだたみ

No.178

2016年 3 月

長崎ゆかりの文学展

第4回企画展 「収藏品展～長崎の女性作家たち～」開催中



県立長崎図書館では、本県にゆかりのある作家や文学作品を中心に、「長崎ゆかりの文学展」として、年4回の企画展を開催しています。今年度最後の企画展は、「収藏品展～長崎の女性作家たち～」です。

本県からは個性的な女性作家が多数生まれていますが、その中からおおえひで、佐多稲子、福田須磨子、林京子、村山早紀など、計12名の女性作家の原稿、色紙、書画などを展示しています。

今回は、おおえひでの原稿（『浦上の町で』・『浜ひるがおの花が咲く』・『ウララちゃん』）、書画（「初心」）、楽譜（「八月がくるたびに」）などを中心にご覧いただけます。

それぞれの作家が追求したテーマや文体の多様さから、文学の世界の広がりとお深さを実感していただけることと思います。

開催期間は、4月3日（日）までとなっております。この機会にぜひご来館ください。



もくじ

- ◎長崎ゆかりの文学展第4回企画展 P1
- ◎第36回県立長崎図書館講座・こども大会 P2
- ◎資料紹介 ～相撲のイロハ～ P3
- ◎県公共図書館等協議会表彰団体紹介 P4
- ◎県内図書館散歩・公開講座・県立長崎図書館からのお願い P5
- ◎県立長崎図書館利用案内・催し物のご案内 P6

第36回 県立長崎図書館講座

講演「故郷・長崎 諫早で発光し続けた作家 のろくにのぶ 野呂邦暢」を開催しました。

11月8日（日）、ライター・書評家の岡崎武志氏を講師にお招きし、「故郷・長崎 諫早で発光し続けた作家 野呂邦暢」と題する講演をしていただきました。

講演の前半は、近年の出版界、書店、古書店の事情などを、軽妙かつユーモラスに、後半は、野呂文学と長崎・諫早の深い関わりなどについて、様々なエピソードを交えながら、わかりやすく語っていただきました。

講演後の質疑応答では、野呂文学や野呂邦暢の魅力を伝えたい、という熱い思いの発言が多く、会場全体が和やかで温かい雰囲気でした。

また、質疑応答以外にも、野呂邦暢のことをよく知っておられる方々のお話を聞くことができました。「諫早通信」編集長の西村房子氏は、野呂文学の魅力や様々なエピソードについて語られ、野呂邦暢の実兄の納所祥明氏は、出版界における野呂文学の再評価に意欲的に取り組んでおられる岡崎氏に感謝の気持ちを述べられました。

受講者からは、「難しい話かな？と思っていたが、やわらかい内容で親しみがもてて良かった。」「わかりやすく、とても勉強になりました。」「ユーモアにあふれ、野呂さんへの思いのこもったお話に、様々な示唆をいただいた気がします。」などの感想が寄せられ、大変好評でした。



こども大会

ご参加ありがとうございました！！

12月5日（土）、本館講堂において「こども大会」を開催し、今回も多くの子どもたちと保護者の方々にご来場いただきました。紙芝居の画面からいなくなってしまったコックさんをみんなで探したり、ばけくらべをするタヌキさんとキツネさんを応援したりと、おはなしの面白さを会場全体で共有できた1時間となりました。

プログラム	
絵本	「はじめまして」 「みんなでんしゃ」
紙芝居	「ごきげんのわるい コックさん」
おはなし	「よくばり家主」
ペープ サート	「十二支のはなし」
人形劇	「ばけくらべ」



日本の伝統的スポーツとして知られる相撲。今年の初場所では、大関の琴奨菊が優勝して話題になりました。ちょっと前には相撲好きな女性のことを指す「スージョ」という言葉を耳にした方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今回は身近なスポーツのようで、知らないことも多い相撲競技に関連する資料をご紹介しますと思います。

『相撲大事典 第三版』

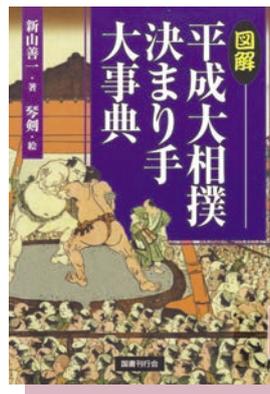
金指基／原著 現代書館刊



相撲に関する専門用語や事柄を五十音順に掲載しています。調べるだけでなく、読んでも楽しい事典です。

『図解 平成大相撲決まり手大事典』

新山善一／著 琴剣／絵 国書刊行会刊

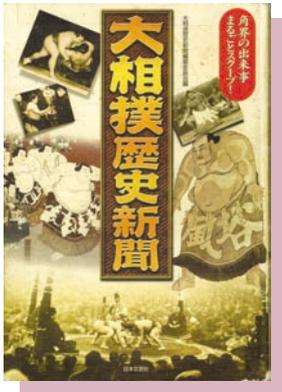


相撲の決まり手をイラスト入りでわかりやすく解説しています。

反則負けとなる『禁じ手』についても紹介しており、相撲観戦がより楽しくなる1冊です。

『大相撲歴史新聞』

大相撲歴史新聞編纂委員会／編 日本文芸社刊



大相撲の名勝負や横綱の結婚などの土俵外のことまで新聞形式で紹介しています。

大相撲の歴史がわかる1冊です。

『相撲、国技となる』

風見明／著 大修館書店刊



相撲が日本の国技と認識されるようになった、その理由とは？

国技館命名の経緯や古代からの競技であった相撲が近代化を果たした歴史について紹介します。

『シコふんじゃおう』

元・一ノ矢／著 白木仁／協力 ベースボール・マガジン社刊



相撲でエクササイズ？元力士の著者が「シコ」の踏み方を教えます。

「シコ」をマスターし、実践することでどんな効果があるのかを紹介しています。

『相撲のひみつ』

新田一郎／著 曾根愛／イラスト 朝日出版社刊



番付や相撲に関係する道具、土俵などについて、図解入りで秘密を解き明かしてくれる1冊です。

県公共図書館等協議会表彰団体紹介

● 口之津図書館友の会（南島原市）



この度の受賞に、私たち友の会の活動が認めてもらえたということで、会員一同大変喜んでます。長崎県公共図書館等協議会の皆さま、ありがとうございました。心から感謝申し上げます。

私たち「口之津図書館友の会」は平成3年、口之津公民館の一室にあった図書室から図書ボランティアの会として始まりました。これが原点です。

活動としては、大きなお話し会を図書館で年に2回（6月てんとうむしお話し会、12月クリスマスお話し会）行っています。

町内外の保育園児が100～150名ほど集まり、ペープサート*¹、エプロンシアター*²、大型紙芝居、大型絵本、パネルシアター*³など約1時間、子供たちは目を輝かせながら聞いてくれます。

地元にある口加高校（生活創造学科）の生徒に絵本の読み方やペープサートなどの製作指導をしています。高校生が製作した作品は、12月に行うクリスマスお話し会で発表してもらい、高校生の貴重な体験の場となっていると同時に、私たちも良い刺激をもらっています。

その他、「お話しカーニバル」「ブックスタート」「寺小屋21」など市の事業にも参加させて頂いています。

認知症を支える会として活動されている「ささえさんの会」と一緒に老人施設を訪問して、施設の方々にも喜んでもらっています。

私たち口之津図書館友の会は、これからも絵本の世界、おはなしの世界の素晴らしさを子供からお年寄りまで伝えていきたいと思ひます。そして、自分たちも楽しみながら地域の方々から、親しまれる友の会でありたいと思ひています。これからもお話を聞いてくれる皆さんに支えられて、私たちも成長し続けたいと思ひます。

※1ペープサート…紙人形劇 ※2※3エプロンシアター・パネルシアター…エプロンやパネルを舞台に見立てた人形劇

● 子どもの本ネットワーク協議会 五島っ子（五島市）



今回の長崎県公共図書館等協議会の表彰は、あと、5年後くらいなら表彰にふさわしい活動が出来ていたかも、というのが正直な気持ちです。平成20年に当時の教育委員会の協力もあり、五島市内で活動していた図書ボランティアの団体が集まり「各団体の交流」「子どもの本の勉強会」を目的に結成されました。事務局を五島市立図書館が担ってくれています。現在14団体、約80名の会員です。牛歩のあゆみですが、新しくボランティアになられた方向け「読み語り勉強会」、絵本作家を招いての講演会、パネルシアター・ブックトーク・わらべ歌などの勉強会を開催してきました。

4年前からは「五島っ子 ブックフェスタ」と名付け、年度の活動のまとめのような、少し大きなイベントを開催しています。内容として市内の学校・図書館利用者呼びかけ「手づくり菜」の「菜コンクール」をおこなっています。毎回、幼児から大人まで200名前後の応募があります。そしてこのブックフェスタには各団体の「おはなしや人形劇」などを披露してもらっています。今年は「菜コンクール」と「藤田浩子さんの講座」「保育所や幼稚園などへの藤田浩子さんのおはなし会」を予定しています。

ゆるやかな「子どもの本」を間においたネットワークの団体ですが、なかには結成20年以上の団体もあり、また、地域の民生委員さんの団体・図書館を核とした団体・幼稚園・小学校のおはなし会の団体・個人と、それぞれが地道に継続してきた活動が表彰されたものと思ひています。

今後、五島市の新図書館が建設された際には、子どもの本の拠点として、ネットワークの輪がさらなる広がりを持つことを期待しています。



波佐見町図書館は、平成9年度に波佐見町総合文化会館図書室として開館し、その後、町民の資料及び情報の要求に応え、町民の生涯にわたる学習活動を積極的に援助し、文化の発展に寄与するために平成16年度に波佐見町図書館となりました。

現在、面積が273㎡（閲覧室面積249㎡）で蔵書数は約5万冊となっており、半径500m内に小学校・中学校があるため、定期的な利用者が多くあります。

本町図書館は、各小中学校と貸し出し業務や蔵書整理などの連携を取り、子どもたちの読書活動の推進につとめ、毎年5月には親子読書のつどいを開催し、町内の読み聞かせグループ4団体が、読み聞かせや人形劇などで園児や児童を楽しませています。

また自宅のパソコンから蔵書検索や貸し出し中の資料に対する予約などの整備導入を行い、利用者の利便性につとめ、わが町の図書館として、町民の方に多くの本と出会い、生涯学ぶ場を提供していきたいと思っています。



放送大学・県立長崎図書館共催 公開講座を開催しました。



2月13日(土)に放送大学長崎学習センターと共催し、公開講座を開催しました。当日は、長崎大学名誉教授の武政剛弘^{たけまさたけひろ}氏を講師にお迎えし、「暮らしに利用している水の不思議な力」と題して講演をしていただきました。軟水と硬水の違いから、普段なにげなく目にしている水の力による現象、長崎の水道の仕組みまで、難しい水理学の分野を興味深い内容で説明していただき、暮らしに生かしている水の力を、改めて見つめ直す時間となりました。

県立長崎図書館からのお願い

卒業・入学・異動の季節です。

借りたままになっている本はありませんか？

図書館の本は県民共有の財産です。

万一、返却されていない本がありましたら、ご返却をお願いします。

※玄関横の返却ポスト（24時間対応）へ返却も可能です。ただし、CDなど破損の可能性のある資料についてはカウンターまでお返し下さい。

また、住所など連絡先の変更があった方は、手続きが必要です。直接、または電話（095-826-5257）にてお知らせください。

県立長崎図書館 利用案内



催し物のご案内

平成28年度「長崎ゆかりの文学展」

(第1回企画展)

「長崎の島の物語」

期間：平成28年4月26日(火)～6月26日(日)

場所：県立長崎図書館 4階郷土資料展示室

時間：9：30～17：00 (ただし休館日を除く)

第37回 (平成28年度 第1回)

(県立長崎図書館講座)

「吉村昭歴史小説の世界」

長崎を舞台とした小説をよむ

講師：本馬貞夫氏 (長崎学アドバイザー)

日時：平成28年5月21日(土) 13：30～15：30

場所：県立長崎図書館 2階 講堂